

新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会（第4回及び第5回）における
高校WG関係の主な発言概要

- 総合的な探究の時間において地域と連携・協働して探究的な学習を進めていくことがこれからますます求められているが、教員はそういう経験がないために、どのように地域と学校、あるいは地域と生徒をコーディネートすればよいのか具体的な実感として見えていない。そのためには、教員のコーディネート能力の向上やコーディネーターの存在が今後非常に重要になってくる。（第4回）
- 定時制・通信制が今、あたかもいい方向に向いているように書かれているが、爆発的に通信制高校の人数が増えている中で、通学型とか、全日型といった制服を着て通う通信制学校までできてきており、これがおかしいということがスタートではないのか。「個別最適化された学び」も、学校で、学校内の授業でのことであって、自分が好き勝手に一人で、社会性も何も関係なしに勉強するためにやることではなく、方向性が違うのではないか。高等学校教育、初中教育は社会性をしっかりと身に付けさせるという目的があり、定時制・通信制の在り方の検討の方向性がこれまで言われていたものと違うという疑問がある。（第5回）
- 今の通信制高校が大変人気になってきていることは、様々な面で、既に子供たちの現状に合っていない制度に対し、民間側から提示したソリューションになっている。例えば、35人、40人の中で、同じ進度の中で勉強することはできないということで、ICTを最大活用したらああいう形になった、そこを自分の学びの場所だと思ってしまうというのは、止められない市場や家庭のニーズではないか。（第5回）
- 定時制に来る子供たちというのは、不登校の経験があるとか、特別な支援を要する子供たちが多いということで、全日制との差が実態として見られ

る。我々のところでも、新たに昼間の定時制を作って、柔軟なシステムを取りながら、少人数で、ゆったりしたペースで学べる環境を整えて、中学時代、1日も学校に出でこられなかった子供が、高校は休まずに出で、進学や就職をすることができた、いわゆる社会的自立につながったという事例が出ている。(第5回)

* 上記内容は、委員の了解を取っておらず、事務局がまとめたものである。